模試と同傾向の出題　～ベネッセ・駿台模試より～

数学Ⅰ・A

センター試験・第2問〔2〕（1）

(1)　図1は全国48地点で観測しているソメイヨシノの2012年から2017年までの6年間の開花日を，年ごとに箱ひげ図にして並べたものである。

図2はソメイヨシノの開花日の年ごとのヒストグラムである。ただし，順番は年の順に並んでいるとは限らない。なお，ヒストグラムの各階級の区間は，左側の数値を含み，右側の数値を含まない。

次の［ソ］，［タ］に当てはまるものを，図2の⓪～⑤のうちから一つずつ選べ。

- 2013年のヒストグラムは［ソ］である。
- 2017年のヒストグラムは［タ］である。

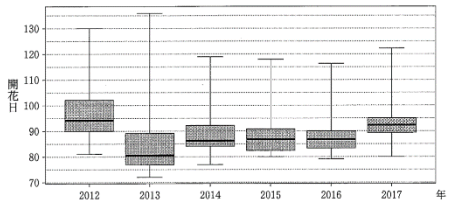


図1　ソメイヨシノの開花日の年別の箱ひげ図

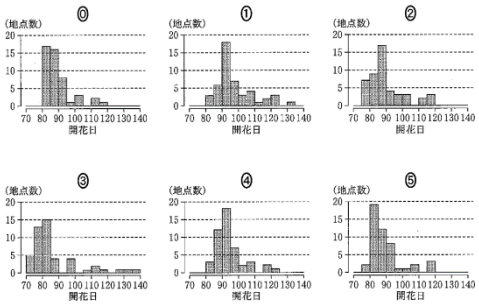
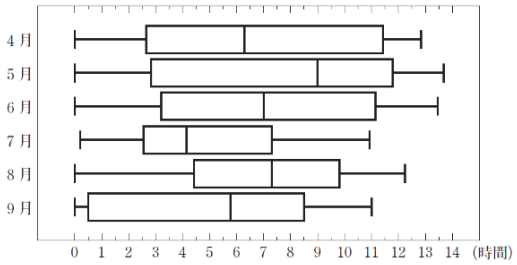


図2　ソメイヨシノの開花日の年別のヒストグラム

（出典：図1，図2は気象庁「生物季節観測データ」Webページにより作成）

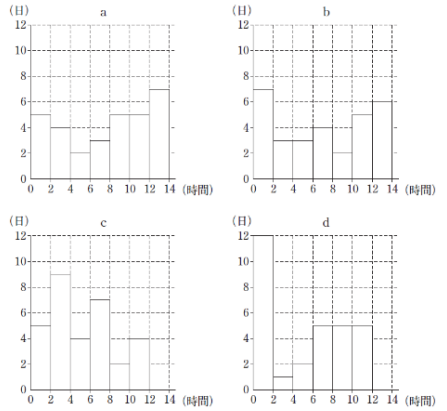
第1回ベネッセ・駿台マーク模試・第2問〔2〕（3）

4月から9月までの各月の日ごとの日照時間について，次の箱ひげ図を作成した。箱ひげ図から読み取れることとして正しいと判断できるものは［ニ］である。



出典：気象庁ホームページ『過去の気象データ』より作成

日照時間について階級を0時間以上2時間未満のように階級の幅を2時間としたヒストグラムを作成した。箱ひげ図から5月，7月，9月のヒストグラムの組合せとして正しいものは［ヌ］である。



出典：気象庁ホームページ『過去の気象データ』より作成

	⓪	①	②	③	④	⑤
5月	a	a	b	b	c	c
7月	c	d	c	d	a	a
9月	d	c	d	c	b	d

今回のセンター試験の数学Ⅰ・A第2問〔2〕（1）「データの分析」は、全国各地のソメイヨシノの開花日に関する箱ひげ図に対応するヒストグラムを選択する問題で、2種類の図の最大値や最小値の表し方など、基本的な知識や理解が問われた。

第1回ベネッセ・駿台マーク模試の数学Ⅰ・A第2問〔2〕（3）「データの分析」は、4月から9月までの各月の日ごとの日照時間について、箱ひげ図やヒストグラムに関する理解を問う問題であり、解答記号**ヌ**ではセンター試験の問題と同様に、箱ひげ図に対応するヒストグラムの組合せを問うた。箱ひげ図とヒストグラムの最大値や最小値、四分位数や中央値など、基本的な知識や理解を網羅して出題していたため、本問を復習していた受験生にとっては、センター試験での解答に役立ったであろう。

データの分析の分野では、文章量が多く初見の図やグラフが与えられることが多いため、苦手に感じることもあるだろう。しかし、解答に必要な知識や読み取りのポイントは類似していることも多いので、演習を重ねることで「どこに着目すればよいのか」をすばやく判断する力を身につけてほしい。